



上郡町自主防災組織活動の手引

(概要版)



みんなではじめよう
自主防災！

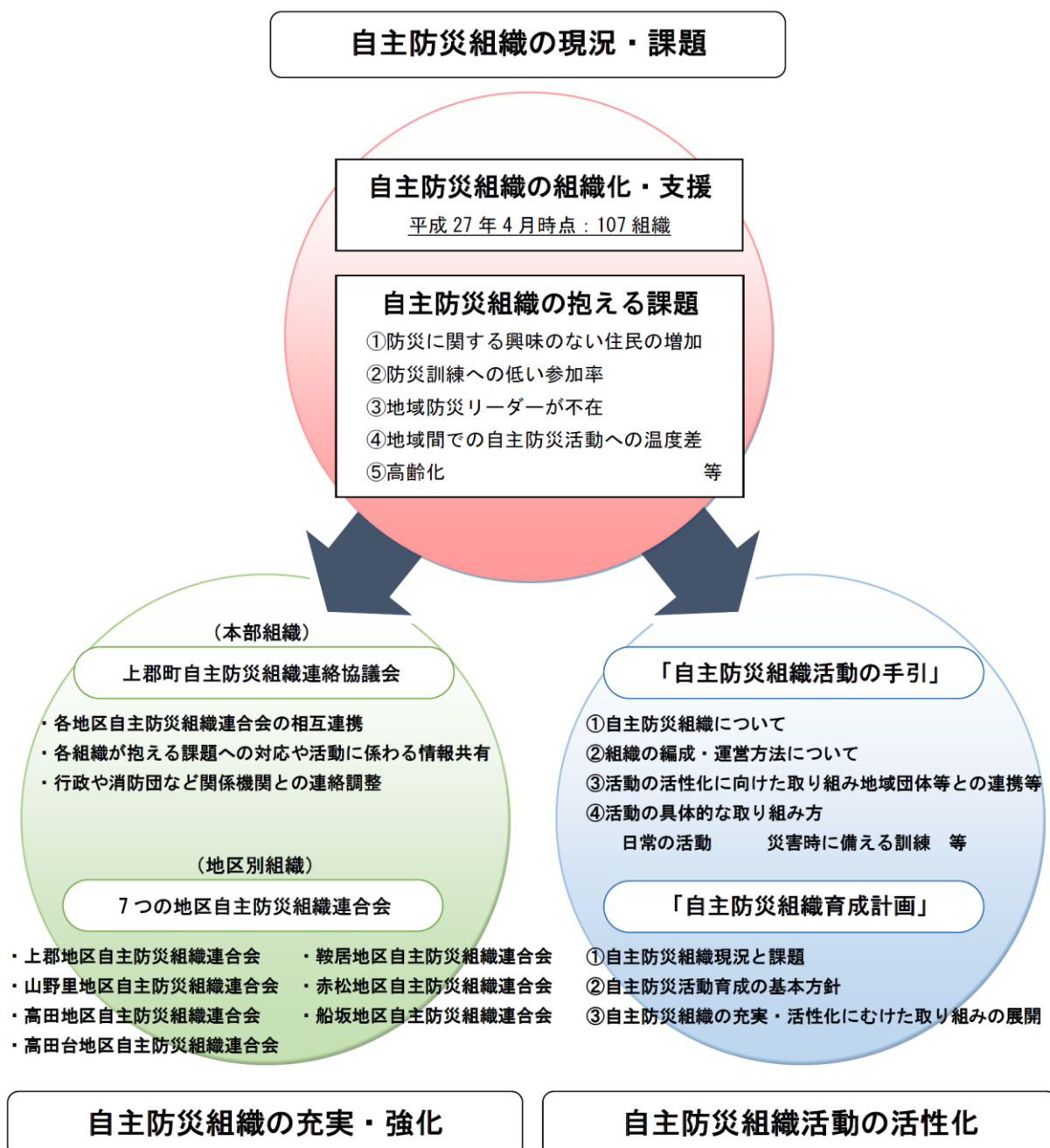


平成29年3月
上 郡 町

上郡町のめざす自主防災組織の活性化について

本町では現在までに、各自治会単位で自主防災組織が編成されていますが、活動状況には地域差があり、地域の防災力の低下が懸念されています。

そのため、本町では今後 7 つの地区自主防災組織連合会と本部組織となる自主防災組織連絡協議会を設立するとともに、町内の自主防災組織におけるさまざまな現況・課題を踏まえ、組織の充実・強化とともに、活動の活性化を図り、地域の防災力の向上をめざしています。



● 地区自主防災組織連合会、自主防災組織連絡協議会とは？

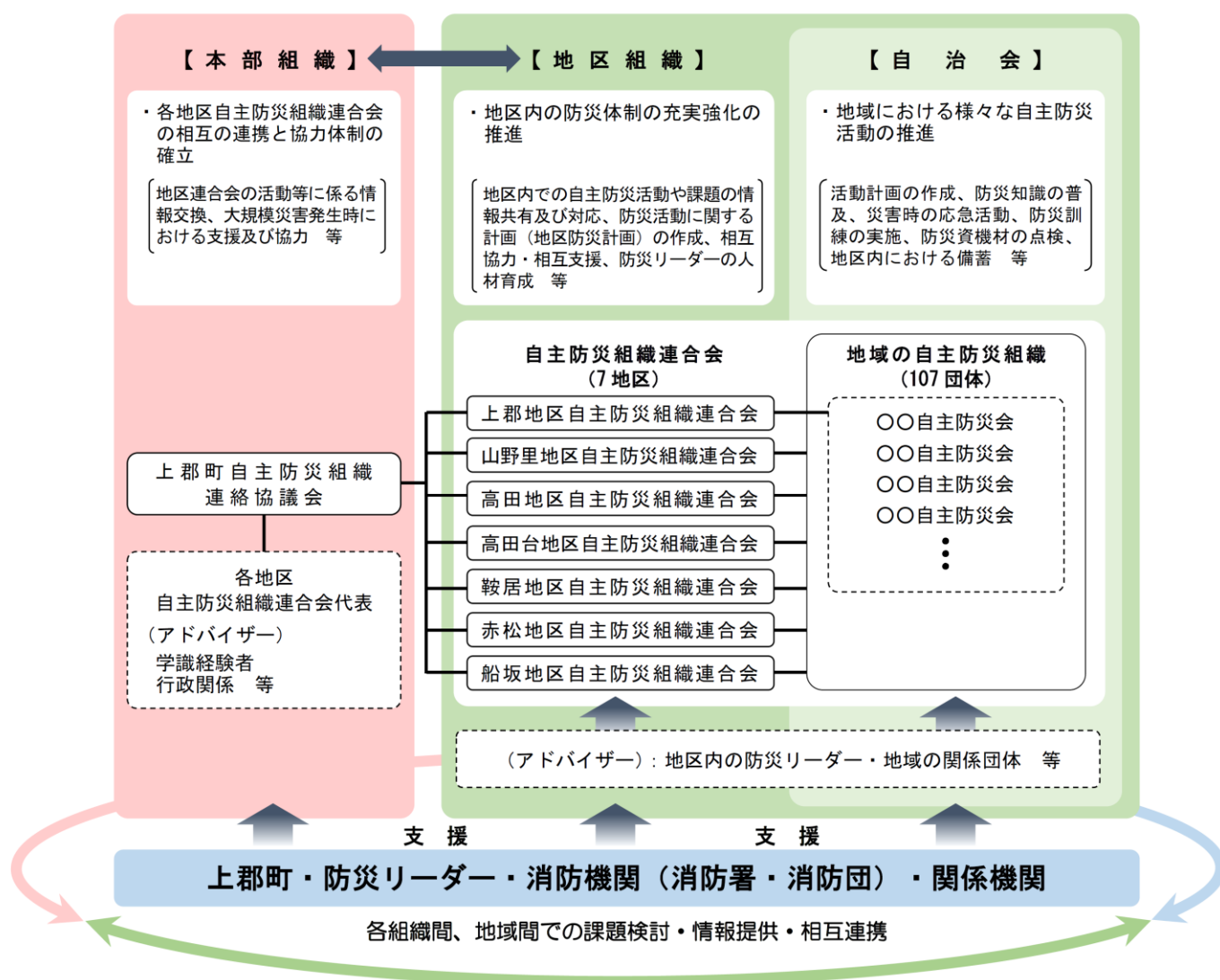
① 7つの地区自主防災組織連合会

現在、本町には自主防災組織が107の自治会単位で編成されていますが、今後は、既存の組織を活用した新たな自主防災組織の枠組みとして、連合自治会単位による7つの地区自主防災組織連合会を組織化することとしています。

② 上郡町自主防災組織連絡協議会

「上郡町自主防災組織連絡協議会」は、地区自主防災組織連合会等が継続して活動ができるように、地区間の相互の連携を図り、各組織が抱える解決すべき課題への対応や活動に係る情報の共有を図ることを目的に設置される組織です。

図表 自主防災組織・地区防災連合会・連絡協議会の構成



地域防災力の向上

※ 地区とは各連合自治会単位、地域とは各自治会単位を指します。

1

上郡町の自主防災組織について

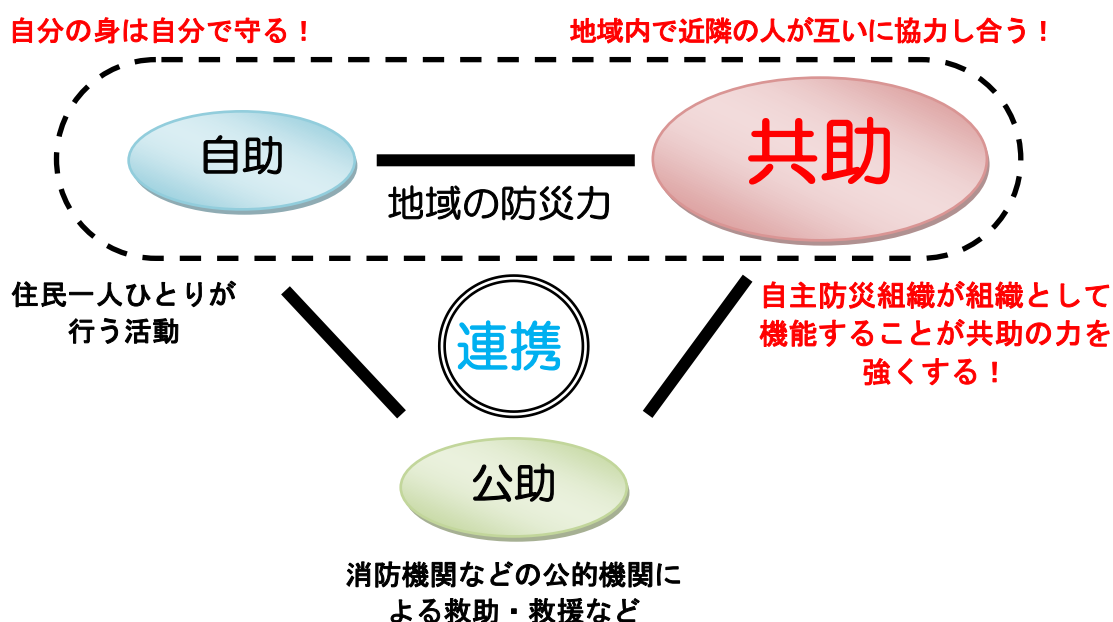
みんなで地域の防災力を高めよう

- 自主防災組織は“共助”の活動を担い、住民一人ひとりの活動（自助）とともに、地域の防災力を高める必要不可欠な存在です。
- いざというときに機能するよう、自主防災組織の担う役割を理解し、取り組んでいくことが特に重要です。

● 自主防災組織はなぜ必要？

自主防災組織は、地域の防災力を高めるために必要不可欠な存在であり、下図に示すように、「共助」の活動を担います。そして、「自助・共助・公助」が相互に連携することで災害時に力を発揮します。

図表 防災活動における「自助・共助・公助」



● 自主防災組織の役割は何？

災害時における自主防災組織の役割は、地域で連携して被害を最小限に抑えることです。特に災害発生直後は、人命救助や初期消火に努めることで、被害の軽減に大きな役割を果たします。

2

自主防災組織の整備・運営

地域に合った、継続して活動できる組織づくりをめざそう

- 日常・災害時に偏りのない人員、活動内容や地域の状況に合った組織を編成しましょう。お互いの役割を理解しておくことも重要です。
- 継続して活動できる組織づくりを心がけ、さまざまな世代の方が参加できるしくみをつくるのが大切です。

● 効果的な組織にしていくためには？

効果的な自主防災組織にしていくためには、災害時に地域の防災力を最大限に発揮することができるよう、地域の皆さんで組織を編成します。まずは組織のまとめ役（会長）のもと、活動する班や構成員一人ひとりの役割を決めましょう。基本的な班編成と各班の日常時・災害時の役割は次のとおりです。

図表 班編成と日常・災害時の役割（例）

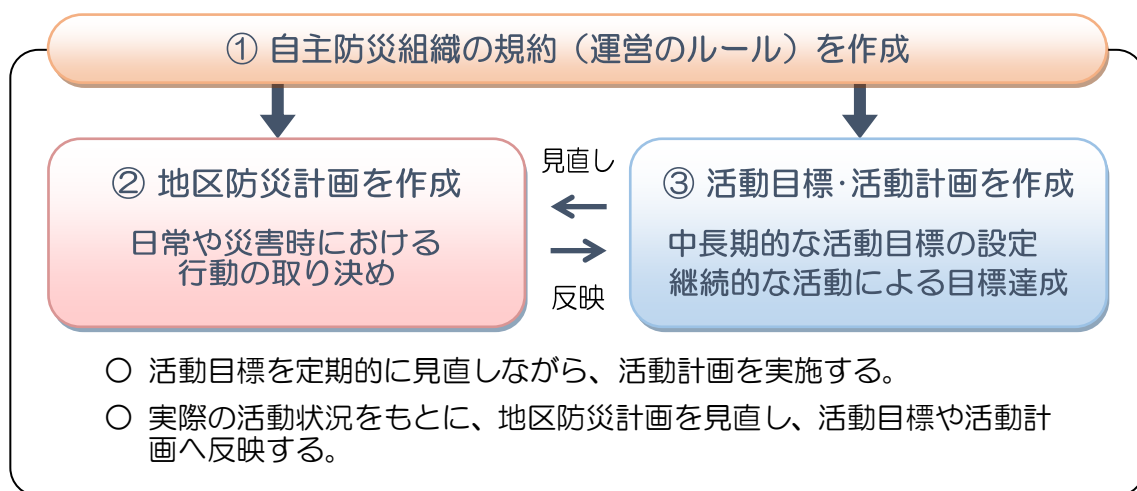
		日常時の活動	災害時の活動
会長 副会長 	情報班	防災意識の啓発 広報活動 防災マップの作成	災害情報の伝達 被害状況の把握 町との連絡
	消火班	消火方法の指導 初期消火の訓練 消火用水の確保	出火防止の広報 初期消火活動
	救出・救護班	救出用資機材の点検 危険箇所の把握 救出・救護訓練	負傷者の把握 救出・救護活動 医療機関への協力要請
	避難誘導班	避難場所・経路の周知 避難行動要支援者の把握 避難訓練	避難場所・経路の安全確認 避難誘導
	給食・給水班	食料・水の備蓄 給水拠点の把握 炊き出し訓練	物資調達と配分 炊き出し

● 計画的・継続的に活動するためには？

自主防災組織を計画的・継続的に運営するためには、組織の運営のルール（規約）を作成しておく必要があります。

地区防災計画や年間の活動目標、活動計画を立て、見直しながら計画的・継続的に活動しましょう。

図表 自主防災組織の運営について



POINT

◎ 活動計画を作成する際のポイント

- 段階的に活動目標を修正しながら活動レベルの向上に努め、地域の防災活動について継続的に取り組む姿勢で検討しましょう！
- 年間計画に特徴をもたせるために、年毎の重要項目（目玉になる活動）を決めることも工夫のひとつです。

そのほか、日ごろの活動に参加が困難な場合でも、災害が起きたときに協力をお願いするといったかたちで「自分はこんなことができる」という特技を登録し、災害時の活動に協力してもらう「災害時お助けバンク」などによって、役割の充実を図ることも重要です。



災害時お助けバンクとは？

災害は、何時どんなときに起きるかわかりません。

それでも災害が発生したら、地域のみなさんが力を出し合い、協力し合いながら、“みんなの力”を集結し、「自分たちの地域は自分たちで守る」必要があります。

「災害時お助けバンク」は、災害時に住民のみなさんが様々な活動に幅広く参加・協力できるよう、あらかじめ“みなさんにできること”を登録していただく取り組みです。

3

活動の活性化・地域防災力の向上に向けて

多世代の参加や他団体の連携を促し、活動を活性化させよう

- 訓練のテーマや地域の行事と結び付けるなど、さまざまな機会を利用し、日常の暮らしと結びついた防災活動を進め、活動の参加者を増やしましょう。
- 自主防災組織の活動を活性化させるためには、団体間の連携や防災に関する知識を身につけることが重要です。

● 活動の参加者を増やしていくためには？

自主防災組織に参加してもらうためには、まずは活動内容を知ってもらい、地域の皆さんに関心をもってもらうことが重要です。

そのため、訓練の実施時期やテーマ、地域行事と連携して取り組むなど、工夫しながら活動に取り組みましょう。

POINT

◎ 訓練の実施時期やテーマを工夫してみましょう

- 訓練の実施日をポスター、チラシ、回覧板などで、住民に周知徹底しましょう。
- 毎回同じ日時に訓練を実施すると同じ人しか参加できないので、休日や夜間などさまざまな人が参加できる工夫をしましょう。
- 訓練は繰り返し行うことが大切ですが、テーマや年齢層を絞るなど訓練内容に変化をつける工夫も必要です。

◎ 地域行事や子ども達も参加しやすい訓練を取り入れてみましょう

- 地域に防災の知識・技術を広めるためには、気軽に実施できることから始めてみるのが大切です。子どもから大人まで、楽しみながら参加できる活動を開催するとよいでしょう。
- 地域のお祭りや運動会、とんど焼きなど多くの人が集まるイベントに消火器の的あてゲーム、バケツリレーや小型ポンプでの消火、簡易タンカ搬送リレー、土のう積み競争など防災訓練の要素をプラスすると効果的です。

● 地域団体と連携していくためには？

これからの自主防災組織の活動では、地域のさまざまな活動団体と有機的に連携し、地域の防災力の向上を図っていくことが求められます。

防災活動や災害時の課題などから地域団体の活動との接点をみつけ、活動を広げていきましょう。

活動における地域団体との連携では、おもに消防団や民生委員・児童委員などが挙げられます。

消防団との連携



消防団の方々は、地域防災力の向上に向けたよきアドバイザーとして、防災資機材の利用や訓練の指導、防災知識の普及啓発などが期待されます。

民生委員・児童委員との連携



民生委員・児童委員の方々は、地域で支援の必要な方々の身近な相談などに取り組んでおり、災害時の避難活動や避難所等での支援や協力が期待されます。

● 防災に関する知識を身につけるためには？

防災士等の資格取得や消防団との連携を通じて、必要な知識を習得するなど、専門的な知識を身につけていくことが求められます。

POINT

◎ 知識の習得

- 防災士等の資格取得や消防団との連携を通じて専門的な知識を身につけましょう。
- 総務省消防庁の「防災・危機管理 e カレッジ」など、インターネットを通じて気軽に学べる機会も有効です。

URL : <http://open.fdma.go.jp/e-college/>

4

自主防災組織活動のポイント

災害時に備え、日ごろから活動や訓練に取り組もう

- 日常の活動の成果が災害時に活かされます。災害時の活動や訓練内容を理解し、継続して取り組みましょう。

(1) 日常の活動

- 日常時はどのような活動がある？

日常時の活動としては、おもに次のようなものがあります。

防災知識の普及・啓発

さまざまな機会を利用して防災知識の普及・啓発に取り組みましょう。



災害危険箇所等の把握

あらかじめ地域の災害危険箇所について確認してみましょう。



要配慮者の把握

民生委員・児童委員とも連携を図りながら取り組み、避難や避難所での必要な配慮等についても把握を心がけましょう。

資機材の整備

情報収集・伝達、消火、救出・救護、避難誘導などの防災活動を行うための必要な資機材を揃えておきます。

使い方がわからない資機材については、災害時に適切に使用できるように使用方法を確認しておきましょう。



目 的	防 災 資 機 材 (例)
情報収集・伝達用	携帯用ラジオ、腕章、住宅地図、電池メガホン、メモ帳、油性マジック等
初 期 消 火 用	消火器、水バケツ、防火衣、ヘルメット、鳶口 等
救 出 ・ 救 用	エンジンチェーンソー、パール、はしご、のこぎり、スコップ、ロープ 等 担架、救急箱、テント、毛布、シート、簡易ベット 等
避 難 所 ・ 避 難 用	リヤカー、発電機、投光機、強力ライト、寝袋、簡易トイレ 等
給 食 ・ 給 水 用	炊飯装置、鍋、コンロ、ガスボンベ、給水タンク、飲料用水槽 等

(2) 災害時の活動

● 災害時はどのような活動が必要？

災害時のおもな活動は次のとおりです。

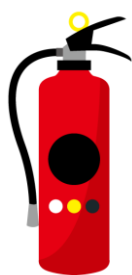
① 情報収集・伝達 《情報は正確に素早く伝達する》

災害のおそれがあるときや災害が発生した場合は、的確な対応をとるため正しい情報を素早く集め、住民に伝えることが大切です。



② 出火防止・初期消火 《火が出たらすぐに消火する》

日ごろから地域ぐるみで火を出さないように徹底しておくとともに、火が出たらすみやかに消火活動を行います。



③ 救出・救護 《すみやかにみんなで行う》

大きな災害が発生すると建物の倒壊や落下物によって多くの負傷者が出ます。

資機材を使って住民の方々を救出し、適切な応急手当を行います。



④ 避難誘導 《落ちついてみんなで避難する》

町長から避難の勧告や指示が出されときは、自主防災組織が中心になって、混乱なく安全に住民全員が避難できるように避難場所に誘導します。

自主的に早期避難することも重要です。



⑤ 給食・給水 《水や食料はみんなで分け合う》

日ごろから食料や飲料水・釜・鍋・燃料などの備蓄が必要です。



(※備蓄は最低7日分、飲料水は1人1日3リットルが目安とされています。)

⑥ 避難所運営 《住民による自主運営が基本》

避難所運営については、町と連携して取り組みますが、住民による自主運営が基本となります。

そのため、避難者の受入れ体制や運営組織の立ち上げ方、避難所での生活ルール等について検討しておきましょう。

(3) 災害時に備える訓練

● 災害時に備えるためにどんな訓練をするとよい？

実際に災害が発生すると、思い通り行動をすることは難しいものです。

そのため、日ごろから繰り返し訓練を行い、防災活動に必要なスキルを身につけておくことが大切です。

また、訓練実施にあたっては、行事などと併せて実施するほか、消防団をはじめ、地域団体と合同で実施するなど、より多くの住民の参加につながるよう工夫して取り組むことも重要です。

図表 防災訓練（例）

訓練名	内 容
個別訓練	・情報収集及び伝達訓練 ・消火訓練 ・救急訓練 ・避難所開設・運営訓練 ・避難訓練 ・救出・救護訓練 ・給食給水訓練 ・避難所体験訓練
図上訓練	・災害に対するイメージトレーニングです。 ・高齢者や障がいのある方など通常の訓練に参加できない方に対して有効です。
声かけ訓練	・高齢者や障がいのある方に対して避難を呼びかける訓練です。
総合訓練	・個別訓練によって習得した知識・技術をあわせて組織の各班がお互いに連携をとり、それぞれ効果的に防災活動ができるように訓練します。



各種自主防災組織の活動に関するお問い合わせ先

●自主防災組織に関すること

上郡町役場住民課消防防災係

電 話 0791-52-1111（代表）

0791-52-1115（直通）

F A X 0791-52-6490

E-mail jyumin@town.kamigori.lg.jp

●防災訓練の支援に関すること

上郡消防署

電 話 0791-52-5119

F A X 0791-52-1351

●ボランティア活動に関すること

上郡町社会福祉協議会

電 話 0791-52-2910

F A X 0791-52-5444

●兵庫県住宅再建共済制度（フェニックス共済）に関すること

公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金

電 話 078-362-9400

上郡町自主防災組織活動の手引

～ みんなではじめよう自主防災！ ～

平成29年3月 発行

発行者 兵庫県 上郡町

〒678-1292

兵庫県赤穂郡上郡町大持 278 番地

電 話：0791-52-1111（代）

F A X：0791-52-6490

ホームページ：<http://www.town.kamigori.hyogo.jp/>